

# 北本市自然遊歩道休憩舎

埼玉県北本市都市整備部都市計画課 主査 伊達香織

## 1. はじめに

北本市は、埼玉県のほぼ中央に位置し、北本自然観察公園や北本中央緑地など武蔵野の面影を残す雑木林が市内に点在する緑豊かな住宅都市です。

東西5.8km、南北5.3km、面積19.84 km<sup>2</sup>を有し、大宮台地上はほぼ平坦な地形で、市の中央部を国道17号やJR高崎線が南北に縦断、これに沿って市街地が形成されています。さらにその外側には緑豊かな田園地帯が広がり、西側には荒川が流れています。

本市は、首都圏45km内にある立地条件に恵まれ、現在では7万人の人口規模となっており、市では、「ずっと暮らし続けたいまち、きたもと」をまちづくりのキャッチフレーズに掲げ、緑と環境を守り、生活優先を基本に市民生活、産業、教育・文化において市民の力があふれ北本が実感できるまちづくりに取り組んでいます。

また、平成12年3月に策定し、平成20年3月に改訂した北本市環境基本計画において「緑豊かな自然と共生する安全で健康な文化都市・北本」を望ましい環境像に掲げており、緑に恵まれた自然環境と調和した人と環境にやさしいまちづくりを実践しています。

豊かな自然が残る本市には、日本五大桜のひとつである石戸蒲ザクラ（いしとかばざくら）が東光寺の境内にあり、大正11年、国の天然記念物に指定されました。石戸蒲ザクラは、市内唯一の国指定の文化財であり、木の高さは約14m、根回りは約7.4mもあります。樹齢は約800年とされており、名前の由来はこの地を訪れた源頼朝の弟「蒲冠者源範頼（かばのかじゃみなもとののりより）」にちなんでつuitたと伝えられています。開花はソメイヨシノに比べて数日遅く、例年4月上旬に満開になります。



石戸蒲ザクラ（いしとかばざくら）

また、北本中央緑地は、JR高崎線の両側にそれぞれ20mの幅で延長約1.3km連なっており、3箇所の合計面積3.2haを身近に親しめる緑地帯として市が保全整備しています。JR高崎線沿線では唯一の雑木林であり、また北本を象徴する緑地でもあり、市民の身近な散策の場として親しまれています。



北本中央緑地

桜土手などの名で親しまれている城ヶ谷堤は、江戸時代初期に、付近の田畑を水害から守るために築かれました。戦後、地元の石戸宿の人たちが堤に桜を植え、大切に守ってきました。開花時期には、約60本のソメイヨシノが桜のトンネルをつくり、市内外から多くの花見客が訪れます。



城ヶ谷堤

エドヒガンザクラは北本自然観察公園内の埼玉県自然学習センター近くの自然遊歩道沿いにあり、高さ29mと市内で一番大きな桜です。北本市の天然記念物に指定されており樹齢は約200年と言われています。開花が早く、毎年3月末ごろ満開になります。ピンク色の花が一斉に開き、青空に映える姿は見事なものです。



エドヒガンザクラ

## 2. 水辺施設の整備

北本市自然遊歩道は、豊かな自然景観を持ち、地形的にも起伏に富んだ良好な環境が保全されている石戸宿地区に位置しており、自然環境に触れ、楽しむことを目的に、昭和55年4月、市道などを利用して設定された約2.8kmの遊歩道です。

また、コース上には平成4年7月に開園し、自然とのふれあいの場として整備された北本自然観察公園があります。北本自然観察公園は、荒川河川敷に接する大宮台地の開折谷に立地し、雑木林や湿地など多様な自然が良好な状態で残されています。都市内における小動物のオアシスとなるべき良好な環境の確保を図ることを目的に、都市近郊の恵まれた自然環境を保全・育成し、その中で自然とふれあい、自然とともに学び、憩い、学べる場となる「自然生態観察公園(アーバンエコロジーパーク)」をめざして整備を進めています。現在、計画面積32.9haのうち25.2haが開設済みです。

また、園内の埼玉県自然学習センターは、自然について学習し、自然に対する理解と愛情を深めてもらうことを目的に設置された自然学習の拠点施設で、館内の展示だけでなく、自然観察会やバードウォッチングなどを季節ごとに開催しており、多くの県民や市民に利用されています。

北本自然観察公園内の高尾の池や、周辺湿地の水辺を通る北本市自然遊歩道には休憩舎が設置されていましたが、老朽化のため撤去予定でした。撤去後、周辺の観察や休憩のための施設が埼玉県自然学習センターのみとなり、身近な休憩施設がなくなることが懸念されていました。

そのため、自然と身近にふれあう場所や休憩施設

として休憩舎の設置を、(財)リバーフロント整備センターが(財)日本宝くじ協会の助成を受けて行っている「水辺施設の設置事業」として整備していただきました。

## 3. 施設説明

北本市自然遊歩道休憩舎は、<sup>あずまや</sup>四阿、パーゴラ及びテーブルセット3組からなっており、広さ約13㎡の四阿にはテーブルセット1組を設置しています。周辺の緑や土、水の色と馴染むように四阿の屋根の色に配慮し、土間については、土の色に近いインターロッキングブロックを敷設しています。

また四阿の隣には、広さ24㎡のパーゴラを整備し、テーブルセット2組を設置することで、多くの方々に休んでいただけるようにしています。

四阿やパーゴラは水辺のそばに位置しており、木々の緑や水辺を落ち着いて楽しむことができる、心の安らぎの場、憩いの場として利用されています。



北本市自然遊歩道休憩舎

## 4. 整備効果

このたび、(財)リバーフロント整備センターのご協力をいただき、「北本市自然遊歩道休憩舎」が完成いたしました。

北本自然観察公園を訪れる多くの方々に憩いと安らぎの場として利用していただけるよう、施設の維持管理に努めてまいりたいと考えております。

